

英語前置詞 IN の意味分析

A Semantic Analysis of the English Preposition IN

奥野忠徳*

Tadanori Okuno*

要旨

英語前置詞 IN の全体像を確定し、認知意味論的な説明を与えるために、Herskovits の先行研究を起点として、英語を母語とする話者の空間認知様式に関する仮説を提案した。その仮説が与えられると、IN の(中核的)意味は極めて簡単に定義でき、説明力も大きいことが確認された。

キーワード：中核的意味、固有空間、機能空間、輪郭空間、面分割原理、メタファー

1. 序論

英語前置詞 IN の基本の意味(中核の意味)として、Herskovits (1986; 149) は、次の提案をしている。

IN: inclusion of a geometric constituent in a one-, two-, or three-dimensional geometric constituent

この提案の問題点は、inclusion とは何かが具体的に説明されていないことであり、最悪の場合、トートロジーになる可能性がある。なぜならば、inclusion という概念の中には IN という要素が含まれている可能性が大きいからである。本稿では、英語における inclusion の概念がどれくらい広い概念であるのかを具体的に明らかにし、それによって、英語前置詞 IN の意味範囲を明確なものにしたい。

2. IN の中核的意味

本稿では、英語前置詞 IN の中核的意味(基本の意味)として、次の提案をする。

(1) TR in LM: TR が LM によって定義される空間を占めている。

英語において、LM は空間を(少なくとも)次の3つの仕方で定義すると考えられる。

(2) LM 自体が定義する空間

(3) LM が持つ機能によって定義される空間

(4) LM の輪郭によって定義される空間

(2)のように LM 自体が定義する空間を LM の「固有空間」ということにし、(3)のように LM の機能によって定義される空間を「機能空間」、(4)のように LM の輪郭によって

定義される空間を「輪郭空間」ということにしよう。

(2)の固有空間の例としては、例えば、立方体の粘土の塊に突っ込まれたコインのような例が考えられる。このコインは、粘土が定義する空間、つまり、立方体の6面によって囲まれている空間の一部を占めている。したがって、この状況は(1)を満たし、(5)が成立する。

(5) The coin is in the clay.

(3)の機能空間の例としては、例えば、ボウルにジャガイモが入っている例が考えられる。この場合、そのジャガイモは(2)の意味ではボウルの「外」にあることに注意すべきである。しかし、英語話者、そしておそらくどの言語の話者にとっても、この状況は(6)のように記述されるであろう。

(6) The potato is in the bowl.

これは、ボウルは容器という機能を持ち、容器として定義される空間の一部をジャガイモが占めているからである。機能空間は、機能が成立しなければ消滅する。例えば、ボウルをテーブル上にひっくり返して置いたような状況では、ジャガイモは in the bowl ではなく、under the bowl という記述が妥当する。これは、ボウルを逆さにしてしまうと容器としての機能を果たさないため、(3)による機能空間は定義されず、IN が使用できなくなるためである。ひっくり返したボウルと全く同じ構図であるにもかかわらず、(7)の例は可能である。

(7) John is in the tent.

これは、テントが定義する機能空間を John が占めているためである。テントを逆にして、そこに John が立つ

*弘前大学教育学部英語教育講座

Department of English Education, Faculty of Education, Hirosaki University

たような場合、(7)ではなく(8)のように叙述される。

(8) John is on (top of) the tent.

機能空間は、また、椅子のような物に座っている人間を叙述する場合にも関係する。例えば、次のような例がある。

(9) the man in the chair

問題の状況で IN が使えるのは、その人物が背もたれ部分と腕置きによって囲まれているためであろうと思われる。その証拠に、もし背もたれも腕置きもない椅子、つまり、stool の場合は IN が使えない。

(10) the man on/*in the stool

ここで注意しなければならないのは、(9)において男がその内部空間を占めるとされている空間は、椅子の機能によって定義される機能空間であるということである。そうであるならば、その機能が満たされない場合、いくら囲まれているとは言え IN は使用できないと予測される。その例として、椅子の座面に本が置いてある状況を考えてみよう。この場合、本の場合は次のように ON を用いなければならない。

(11) the book on/*in the chair

これは、本の場合、椅子はその機能空間を定義しないため、本は椅子の外にあり、したがって IN が使えず、状況的に一番合致するのが ON であるためである。

同様に、TR がたとえ人間であっても、(12)のように、その人間が椅子の座面に立っている場合にも ON が使用される。

(12) the man standing on/*in the chair

椅子は座るための物であり、立っている場合には椅子本来の機能が満たされず、したがって、機能空間が定義されないためである。

(4)の輪郭空間の例は次のような物である。

(13) a. John lives in the *mountains*.

b. I live in the *woods*.

c. There's a bird in the *tree/bush*.

d. I found my key in the *grass*.

(13)では、TR は LM の固有空間内ではなく（その外にある）、また、LM が容器のような機能空間を定義する能力もない。これらの文における LM は、同一もしくは類似の形状の要素が多数集まっているという点が共通している。そのような場合、それらの集合をあたかも一つのものであるかのように、その輪郭が定義され、TR はその空間を占めている。したがって、IN の定義に合致し、IN が使用されている。

このように、英語では、LM は（少なくとも）3つの異

なった空間を定義することができる。次にそれぞれの空間をさらに詳しく検討してみよう。

3. さまざまな固有空間

この節では固有空間についてさらに探求する。

3.1 境界が明確でない LM

TR が LM の固有空間を占める例は、すでに(5)で見た。(5)のような例では、LM が個体であり、その境界は明確であったので、「境界によって囲まれている」という風な捉え方も可能であるが、境界がそれほど明確でない場合にも IN が使用できることから、「境界によって囲まれている」よりは(1)のような捉え方のほうが良いように思われる。

(14) a. I stood in the rain. (E-DIC)

b. They dispersed in the worsening weather. (E-DIC)

c. ... a hangar loomed in the darkness.
(Dan Brown, *Angles and Demons*)

d. Coralio relined, in the mid-day heat, ... (O'Henry)

e. ... the palms are fluttering in the breeze. (O'Henry)

f. ... ceremonial jewels that listened like ghostly eyes in the muted light.
(Dan Brown, *Lost Symbol*)

上と下線部の名詞が示す物体の境界を確定することは事実上不可能であろう。しかし、これらにおいてもそれが占める空間は存在し、TR がその一部を占めていることから、(1)には合致している。

3.2 TR が LM の構成要素

次のような例を考えてみよう。

(15) a. the oxygen in the air

b. the pickpockets in the crowd

(15)においては、TR (the oxygen, the pickpockets) は LM (the air, the crowd) の構成要素と考えることができるであろう。一般に、構成要素は全体の一部であるから、全体の空間の一部を構成していると考えるのは自然であり、したがって IN の使用が認可される。

一般に、構成要素は全体空間の一部を占めるということにより、LM が一次元物体であっても IN が使用できる。それには2つの場合がある。まず第一に、(16)のような場合である。

(16) the man in the (waiting) line

line はその認識上1次元物体である。Line は実際に

は3次元物体であるが、実際の特質よりは、その認識 (conceptualization) が重要である。そして、the man は line の構成要素である。上で見たように、構成要素は全体の一部であるから、全体の空間の一部を構成しており、IN の使用が認可される。

第二に、次のような場合である。

(17) an opening in the boundary

(17)では「空白」を表す boundary が TR となっている。空白を表す TR は「空の構成要素」と見ることができるので、(17)の例も構成要素という論理で IN の説明が可能である。

空の構成要素は、1次元の LM のみならず、2次元、3次元の LM の場合にもあてはまる。

(18) a. a crack in the surface

b. a hole in the big piece of pork

(18a) は2次元の LM、(18b) は3次元の LM である。crack、hole は空の構成要素であるから、LM が1次元であろうが、2次元、3次元であろうが、その LM の固有空間の一部を占めていると考えられる。最後に、Herskovits (1986, 151) が指摘している次のような興味深い例を見よう。

(19) a. There are holes and nails in this board.

b. There are nails and a hammer in the box.

(19a) では、釘が板にささったものとして解釈可能であるのに対し、(19b) ではそのような解釈はできない。この事実は、本稿の枠組みでは次のように説明できる。(19a) では、穴は板の固有空間内にある。穴は板の空の構成要素と考えられるからである。また、釘も板の固有空間内にある。したがって、(19a) では LM (= 板) は固有空間と捉えられており、穴も釘も同じ空間内にある。それに対し、(19b) では、釘が箱に刺さったものであるとすると、釘に関しては LM (= 箱) は固有空間として認識されており、ハンマーに関しては機能空間と認識されていることとなり、箱が2つの別個の空間を表すことになり、このような認識が不可能であるから容認されないものと考えられる。

3.3 TR が LM の構成要素 (拡張例)

(2)によって定義される固有空間を占める他の例として、次のような例がある。

(20) a. In a speech to the Social Market Foundation, Mr Major said that the Tories were the party of opportunity. (COBUILD)

b. In the previous chapter, we introduced ...

c. In this letter John says ...

d. In my opinion, John was murdered.

e. In the novels the light-haired friend of the hero always gets killed. (O'Henry)

これらにおいては、TR が LM の内容 (contents) を構成している。つまり、TR が LM の構成要素である。構成要素は、LM の空間の一部を占めていると考えられるので IN の使用が認可される。

3.4 TR が変化を表す

次に、TR が LM に起きる変化を表す例がある。

(21) Our opponent's change in tactics threw us for a loop.

(E-DIC)

変化は LM の構成要素とは言えないであろうが、認識上、LM の内部で起こる出来事であると考えられる。さらに次を見よう。

(22) a. an uptick in shoplifting

b. progress in occult art

c. the decrease in business

c. With the demonstrations increasing in violence day by day, ... (以上、E-DIC)

(22)においては、下線部の表現は LM における増大、減少、進歩を表している。このような概念も変化の一種と考えられるので、(21)と同様の説明が可能である。

次の例は、Herskovits (1986) が accidents of a physical musculature と呼んでいるものである。

(23) a. the curve in the road

b. the crease in his pants

このような例もまた変化の特例として説明できるように思われる。すなわち、このような accidents というものは、認識上、本来は perfect form であった LM に生じた変化ということになる。

次の例は、揺れ、振動などである。

(24) a. "Dear," said Aunt Ellen, with a little tremor in her voice, ... (O'Henry)

b. "Please understand this," she began, a tremble in her voice. (COBUILD)

揺れ、振動なども LM に起こる変化と捉えることが可能であろう。

3.5 LM が2次元空間

次に、LM が2次元空間、つまり、面であると解釈されるような例を考察する。まず、ある面に何かを書いた次のような例を考える。

(25) a. I drew a line on/*in the blackboard.

b. I drew a line on/*in the page.

(Herskovits, 1986)

書かれたものは、通常、ON で表される。しかし、(26)では IN が用いられている。

(26) Draw a line in the margin! (ibid.)

これについて、Herskovits (1986) は次のように述べている。

“One cannot use IN with any piece of surface to mean “included in the area.” A line drawn on the top of a table is not IN the top of the table, but a line drawn on a page might be IN the margin, though it would be ON the page, not IN. The reference object must be one of several areas arising from dividing a surface. The context surface must have at least two subparts, so one can contrast inclusion in one with inclusion in the other. (Herskovits, 1986, 46)

ここでは、この原理を「面分割原理」と呼ぶことにする。

しかしながら、Herskovits は、すべての表面分割が IN の使用を認可するわけではないことも観察している。

(27) *Draw a line in the right half of the blackboard. (Herskovits, 1986, 153)

この例について、彼女は次のように述べている。

The division into cells must be intrinsic; it cannot be induced by the use of terms like *side*, *right half*, etc. (Herskovits, 1986, 153)

つまり、「面分割原理」は内在的な分割に限られるということである。しかし、middle という語は内在的な分割ではないにもかかわらず IN が使用される。

(28) in/ *on the middle

彼女は、middle に関しては、それは例外であるので、特別に指定しておく必要があると述べている。

しかし、なぜ middle はそもそも面分割原理の例外なのだろうか。本当に特別の指定が必要なのだろうか。次の例を見よう。

(29) a. We landed on the runway.

b. We landed in the center of the runway.

runway への着陸は、表面への接触であるから ON が用いられるが、その center への着陸は IN である。そうすると、middle という語自体が例外なのではなく、「中央」という概念自体が「例外」であろう。ではなぜ「中央」が例外的にふるまうのであろうか。

middle/center と left/right side の決定的な差、および、

middle/center と margin のような語の類似性として考えられるのは、left/right side によって言及される領域は、①見る観察点によって変化する、② LM の位置変化によって変化する、という点である。例えば、あるボードがあるとして、the left side という部分は、話者がそのボードを裏側から見れば the right side になる。また、話者の位置が変わらなくても、ボードを180度回転すればやはり the right side になる。それに対し、ボードの中央部分は、話者がそのボードをどこから見ようと、あるいは、ボードをどのように動かそうと、中央部分は依然として中央部分であり、変化しない。同様のことが margin についても言える。このように、middle/center は Herskovits の言う intrinsic division と同等の資格を持つ分割と言えよう。

以上、LM 上に書かれたものを見てきたが、それ以外の場合、2次元 LM について ON を選ぶか、IN を選ぶかの選択を説明することは非常に困難である。この困難の主要な原因は、一般に、2次元 LM が① area と② surface とも解釈できる可能性を持つということにある。area と解釈されれば IN、surface と解釈されれば ON が用いられる。難しいのは、その区別をどのように行うかである。

これに関して、次の例を考察してみよう。(Herskovits, 1986, 147)

(30) a. the players ___ the football

b. The ceiling light ___ the third floor is not working.

(31) a. There is a demonstration ___ the plaza

b. The biology lab is ___ the campus.

c. They exploded a bomb ___ a small island.

d. The highest mountain ___ the continent is Mont Blanc.

e. There is a parking space ___ the next block.

このような例について Herskovits は次のように述べている。

In these situations, the ideas of support and contiguity, though not very remote, are not central; simple location in the area is implied: ... Support and contiguity are implied with the football field and with the plaza (for the participants in the demonstration), but it is clear that focus is not on these. They are irrelevant in the other examples (except perhaps in the campus example, where if the geographic description is taken to be the ground area, the biology lab is at least indirectly supported by it). With the third floor and the football field, one cannot substitute

IN for ON to express general location, for no discernible reason other than convention, ...

(Herskovits, 1986, 147) (下線部筆者)

一般的に言って、2次元と考えられる LM は surface と area と見なせる可能性がある。どちらの見方を採るか、あるいは、どちらも採れるか、あるいは、その場合どちらの方がより普通であるかを LM の属性から予測することは非常に困難であるか、あるいは、Herskovits の言うように不可能であるかもしれない。しかし、それでも何らかの説明を模索する努力が必要であろう。convention であると言ってしまえばそれで終わってしまう。convention による「解決」は、あくまでも万策尽きたときに採る最終的方策とすべきである。

それでは、何らかの糸口はあるだろうか。最小対として(32)を考える。

(32) a. It was one of the great moments of cricket, and I consider it a privilege to have been there on the field at the time.

b. My car was parked in a field close to the village.

(以上、COBUILD)

同じ field であっても、何らかの競技をするための field は surface と認識され、それ以外の field は area と認識される(傾向が強い)ものと思われる。その場合、決定的な差異は、前者の field (cricket field, soccer field) は、その「上」で何らかの(その field の定義にかかわる)活動が行われるのに対し、後者の field では特にそのような活動が定義されていないということのように思われる。

次に、lawn という語を考える。

(33) a. *the lounge chair in the lawn

(Herskovits, 1986)

b. If leaving the furniture out on the lawn, move it around at intervals to give the grass a chance to grow evenly. (COBUILD)

ここからわかるように、lawn は、何かがそこに置かれているという通常の状況では ON を要求する。この理由を探るために、lawn がどのように定義されているかを見よう。

(34) A lawn is an area of grass that is kept cut short and is usually part of someone's garden or backyard, or part of a park. (COBUILD)

ここで重要なのは、lawn の定義の中にそれを構成する素材(ここでは grass)が含まれているということである。この2つの観察から、本稿では(幾分暫定的に)次の仮説を提唱する。

(35) 2次元物体について、

(a) その物体についての特定の human activity が定義される場合、その物体は surface と見なされ、ON が使われる。

(b) その物体が特定の物質で構成されていると定義される場合、その特定の物質に焦点があるため、TR はその「上」にあると見なされ、ON が使われる。

スポーツが行われる field は、そのスポーツ活動がその field の定義の中に入っているため、その field はその活動が行われる surface とみなされ ON が使われる。次の例も同様に説明できる。

(36) Somehow he ended up on the stage performing the original karaoke in front of an audience that took a long time to warm up but, once they had, were quite ecstatic. (COBUILD)

stage を定義するとき、その定義の中には必ずなんらかの performance が含まれるであろう。したがって、それは surface と意識され ON が使用される。

理屈の上からだけであれば、stage を area と解釈する可能性も排除できない。なぜならば、例えば、家を、ここは寝室、ここは居間、ここは台所などと分割しているその分割の仕方と、劇場を、ここは客席、ここは舞台などと分割する場合の分割の仕方が根本的に異なっているとは思えないからである。しかし、家の場合は、「面分割の原理」にしたがい、in the bedroom/the kitchen であり、on the living room/the kitchen とは言わないのに対し、on the stage であり、in the stage とは言わない。したがって、なぜ舞台は面分割原理にしたがわないかを説明する必要があり、その説明が(35a)である。

ここで Herskovits が出している次の例も興味深い。

(37) a. There is a truck in the road.

b. There is a truck on the road.

これらの例について Herskovits は次のように述べている。

In (a), the truck is perceived as an obstacle. I do not see any way to infer this from the fact that the truck is in the area defined by the road, together with knowledge of roads and trucks. If such an inference were possible, it would follow also from (b) and it does not; there is no obvious reason for the idea of an obstacle to arise in connection with IN rather than ON. (Herskovits, 1986)

たしかに Herskovits の言うように、IN/ON の意味と

road に関する知識から obstacle の意味を数学や論理的な様式で導くことはできないが、日常推論の様式では導くことができるように思われる。road という2次元物体で IN を使用する場合を考えよう。その場合には road を area と見なしていることになり、truck はその area の一部を占めている物体という見方をしていることになり、このことから、truck が obstacle と見られている可能性が高いことになる。それに対して、ON を使用する場合、road は surface という認識であり、truck がたとえ(a)と同様、road の一部を占めているとは言え、認識的には truck が LM の表面上にあると言っているだけであり、そこから obstacle になっているという推測はしがたいであろう。

(32)の LM については、すでに述べたように Herskovits は IN/ON 両方可能としながらも ON のほうがより common であると述べている。これらの例についても一つ一つ考察する必要があるだろう。例えば、island は一つの土の塊と認識されていると考えてみよう。そうであれば、TR は LM に関して ON の関係にあることも納得できるし、また、(38)の例も納得できる。

(38) There is an island in the lake.

island が土の塊と考えれば、その大部分は水の中にある。したがって、IN が使用されるものと考えられる。これは、ちょうど、泳いでいる人が水の中にいると認識されるのと同じである。

(39) John is swimming in/ *on the lake.

泳ぐという行為では、その意味から、体の大部分が水の表面の下、つまり、水の中にある。したがって、IN が使用されている。これに対して、float という行為では、その意味から、surface の上に乗っているというイメージも可能である。

(40) Oil floats on water.

もちろん、大部分が水中にあることも可能であるので、次の文も可能である。

(41) It floats in the water.

LM が continent の場合も同様の説明ができるであろう。次に block はどうであろうか。block については、まず、次のような表現が可能であることに注目すべきであると思われる。

(42) a block of ice

(42)が可能であることにより、塊の意味がその中核にあると考えられる。そうすると、block が地理的概念にメタファー拡張された後も、その塊としての性質が残っていると考えると、There is a parking space on the next block という文が成立することもそれほど奇妙なことではない。塊の上に乗っているということになるからである。

Herskovits があげている、IN が使用できず ON のみ可能であるという(43)の説明はそれほど簡単ではない。

- (43) a. mountain (in the singular), promontory, cape
b. shore, beach, coast,
c. ranch, farm,
d. campus

まず、(43a) の LM については、block と同様、塊による説明が可能であろう。特に、mountain は土の塊としての認識であり、promontory, cape もそのように考えられるものと思われる。(43b) の LM については、どれも「水辺に近い土地」を指すという共通点がある。それらが area としてよりも surface しか表さない理由はそれほど明らかではないが、おそらく、それらが言わば大量の水の単なる付属物のように考えられていて、land の一つの独立した area を形成すると考えるには不十分であるということに起因するのかもしれない。(43c) の LM については、それらは人間が動植物を育てるという行為をその定義的意味の中に持つと考えられることから説明できるのではないか。(ただし、なぜ area とも理解されないかは不明である。) (43d) の LM についても、そこでは人間の知的行為などが行われることがその定義に不可欠であることに起因する可能性がある。

このように、幾分推測的な説明を試みてみたが、これは、Herskovits のように、すぐに convention に逃げてしまうことを回避しようとする研究態度に基づいた結果である。上記の具体的な説明が正しい、あるいは、正しい方向を向いているかどうかは別として、今後、さらに多くの証拠によってより説得力のある説明がなされることが期待される。

3.6 比喩的用法

3.6.1 field/area

field という語について、それが地面の一つの area として認識されていることはすでに見た。area や field という語は、それがまさに one whole ground を分割した one division であるがために、ある領域の内にあるのか外にあるのかが重要になり、ON ではなく IN が用いられる(面分割原理)。その物理空間的使用法がメタファーによりさらに抽象的な領域に拡張されて使用されるが、one whole の one division であるという性質はそのまま保持され、次のようなメタファー的用法でも IN が用いられる。

- (44) a. Each of the authors of the tapes is an expert in his field.
b. If a public body was given responsibility for performing public functions in a particular area

of activity, … (以上、COBUILD)

(44)では field、area という語が明示的に出ているが、LM が field/area であると理解・認識されるのであれば、field/area という語は明示されなくてもよい。

(45) a. She was now a leading figure in a new cutting-edge discipline called Noetic Science.

(Dan Brown, Lost Symbol)

b. My first readings in philosophy whetted my appetite for more. (E-DIC)

c. Leonardo da Vinci had gained his expertise in the human form by exhuming corpses and dissecting their musculature.

(Dan Brown, Angels and Demons)

d. Jim's got a lot of experience in sales. (E-DIC)

e. It's very common in symbology.

(Dan Brow, Angels and Demons)

f. Her work ties closely with her father's work in particle physics. (ibid.)

g. I have an oral in philosophy. (E-DIC)

h. You are behind in your English studies. (ibid.)

i. In space exploration, the Russians and Americans are running rings around the rest of the world.

(ibid.)

(45)で下線を引いた LM は、the field/area of … という表現を入れてもよいということから、field/area という語は明示的には出ていないが、そのようなものと理解されている。したがって、IN の使用が許容される。

さらに次のような表現も同様であろうと思われる。

(46) a. They are similar in structure.

b. They are different in kind.

ここでは、2つの物体の相違がどのような field/area においてであるのかが述べられているものと考えられる。

また、数量の多少を言う場合においても、その数量の多少がどのような field/area においてのことであるのかが問題となりうるので IN を用いることができる。

(47) a. Liver and kidney are particularly rich in vitamin A.

(COBUILD)

b. The soil is poor in zinc. (ibid.)

c. Cities abound in a variety of temptations.

(E-DIC)

d. She felt nervous, increasingly lacking in confidence about herself. (COBUILD)

e. … to have condemned him as deficient in the wit and spirit to engage the enigma. (COBUILD)

3.6.2 medium (媒体) について

IN のメタファー的使用において、TR と LM の関係は多岐に渡っている。その一つに、LM が medium (媒体) を表すものがある。

(48) a. Constructed in warm ocher marble to be compatible … (Dan Brown, The Da Vinci Code)

b. … making a sketch from it in pastels …

(O' Henry)

c. … a long sterile hallway paved entirely in white tile. (Dan Brown, Angels and Demons)

d. … written in ink

(48)の LM はすべて何らかの物質を表しており、その物質によって TR が形となって出現している。これを別の言い方で言えば、TR が LM という medium を通して存在するに至っているということである。このような場合、それを、「TR が LM の中に存在する」と見ることも可能であろう。そうであれば、ここで IN が現れることも納得できよう。実際、英語 (他の多くのヨーロッパ言語も同様) では、そのような conception が採用されていると考えられる。そのような物の見方は、(48)のような素材、材料のみならず、さらに多くの medium に見られる。

[a] TR が音声という medium を通して具現化されているもの

(49) a. … speak in the old voice he used on the trail and around campfires. (O' Henry)

b. "Me?" said Jimmy, in a puzzled tone. (ibid.)

c. He will tell you in a whisper. (ibid.)

[b] TR が言語 (語、文字など) という medium で具現化される場合

(50) a. Then in a few words he made the barber acquainted with the crisis … (O' Henry)

b. Upon each one was inscribed in fluent characters the name of Theodore Westlake, Jr. (ibid.)

c. Please describe it in English.

ある人が言おうとしている内容・意味自体は、それを何らかの他の人にも感知できるような媒体 (medium) を介さないと他の人には伝達できない。このことから、意味内容 (TR) は、そのような媒体の IN にあると見ることもできよう。

[c] LM が TR の形状を表している場合。

(51)では、LM は様々な形状を表している。

(51) a. They work in groups.

b. The images went by in an endless procession.

(Angels and Demons)

c. It's still in draft form. (The Da Vinci Code)

d. … move around in circles. (O' Henry)

- e. ... run it down in a *zigzag*. (O'Henry)
 f. ... a big red seal tied with a blue ribbon in a *bowknot*. (O'Henry)
 g. The mist swirled in a smoky *vortexes*.
 h. At the gate a glimmer of reason in the *form* of sudden suspicion seized upon Jerry's beclouded mind.
 i. I noticed three or four little scars in a *row* over your right eyebrows. (O'Henry)
 j. They soar through the skies in *swarms* like pigeons. (O'Henry)
 k. Hydrogen remained in liquid *form* only when it was cold, ... (Lost Symbol)

形状は medium ではないが、TR が具現化される場合、それが取る形はわれわれが感知できるものであり、medium に似た性質を持つと考えられる。つまり、medium も form もわれわれが感知できる物理的特徴であり、それをもとにわれわれは TR を感得できるものである。このような場合、われわれが知覚している材料や形状の「中」に TR が存在すると見なすことができる。LM が medium に似たものを表す他の例として、次のようなものがある。

- (52) a. ... writing his novel in *conversational style*. (E-DIC)
 b. You had \$5,000 in *cash*. (O'Henry)
 c. ... quoted in *yen*.
 d. The house was in *flames*.
 e. The artist painted the flowers in *vivid red*. (E-DIC)

(52)では、スタイル、現金、炎、色という、われわれに感知できる medium によって TR が具現化している。つまり、TR は LM の「中」にあると認知されている。これらは、また、後で見る IN の状態用法とも関係がある。あるいは、IN の medium 用法から IN の状態用法が発展してきたのかもしれない。例えば、次の対を見よう。

- (53) a. TR in *flames*
 b. TR in *peace*

(53a) は本稿で medium と呼んでいる IN の用法であり、(53b) はいわゆる状態を表す IN の用法と言われている用法である。しかし、(53a) もある意味では「燃えている」いう状態とも解釈できるであろうし、逆に、(53b) も、平和という知覚可能な medium を通して TR が具現化していると解釈することも無理なことではないだろう。

形状 (form) と類似している用法として、LM が sense/meaning/function を表す用法もある。

- (54) a. ... not overtly handsome in a classical *sense*.
 b. The brotherhood insisted Lucifer was intended in its literal *meaning*. (The Da Vinci Code)
 (54)では、TR が人間によって感知可能な「意味」というものの「中」に具現化しているということになる。もしそうだとすると、少し逆説的ではあるが、sense/meaning を「ある種の形式」と捉えていることになる。形式と意味の類似性は、どちらも(55)のような変換を許すという点からも幾分か的支持を得るだろう。
 (55) a. A has this form → A in this form
 b. A has this sense → A in this sense

3.6.3 LM が状態

次に、IN+ 状態の用法を考える。この用法は広範である。

- (56) LM = emotions
 in terror/ bewilderment/ amazement/ astonishment/ disgust/ agony/ horror/ a rage/ surprise/ perplexity/ fear
 (57) LM = other states
 in trouble/ a mess/ luxury/ confidence/ disbelief/ black and white/ pain/ a dilemma/ comfort/ earnest/ silence/ suspense/ harmony/ peace/ authority/ power/ contact/ charge/ control/ slow motion

このような現象は、メタファー理論においては(58)のような概念メタファー (conceptual metaphor) を設定することによって説明されている。

- (58) States are containers. (Lakoff and Johnson, 1980, 31)

Lakoff and Jonson によると、(59)のような表現の根底には(58)があるという。

- (59) a. He's in love.
 b. We're out of trouble now.
 c. He's coming out of the coma.
 d. I'm slowly getting into shape.
 e. He entered a state of euphoria.
 f. He fell into a depression.
 g. He finally emerged from the catatonic state he had been in since the end of finals week.

(58)の他に、Lakoff and Johnson は次のような概念メタファーの存在も指摘している。

- (60) a. The visual field is a container.
 b. Events are container objects.
 c. Activities are substances (and therefore containers).
 次のような例が(60)の概念メタファーを具現化している

例である。

(61) (60a) の例

- a. The ship is coming into view.
- b. I have him in sight.
- c. He's out of sight now.

(62) (60b) の例

- a. Are you in the race on Sunday?
- b. Halfway into the race, I ran out of energy.
- c. He's out of the race now.

(63) (60c) の例

- a. In washing the window, I splashed water all over the floor.
- b. How did Jerry get out of washing the windows?
- c. He's immersed in washing the windows right now.

4. さまざまな機能空間

われわれは、TR in LM が成り立つ場合、TR が LM によって定義される空間を占めており、定義する仕方には (少なくとも) 3つの在り方があることを指摘した。

- (A) LM 自体が占める空間によって定義される空間 (固有空間)
- (B) LM がもつ function によって定義される空間 (機能空間)
- (C) LM の輪郭によって定義される空間 (輪郭空間)

今までは、(A) のような固有空間に TR がある場合を考えてきた。次に、(B) のように LM 自体が定義する固有空間内に TR がない場合を考えてみよう。一番典型的な例は次のようなものであろう。

- (64) a. The hammer is in the box.
- b. John is in the room.
- c. There is a potato in the bowl.

すでに述べたように、(64)では LM 自体の中に TR が入っているわけではない。その意味では TR は LM の「外」にある。しかし、それにもかかわらず IN が使えるのは、LM が container としての機能を持っているためであり、したがって、それもすでに述べたように、その機能が満たされない状況にすると IN が使えなくなる。bowl をひっくり返してテーブルに置いた場合や、椅子の例はすでに述べたが、機能によって定義された空間を占めるときに使われる IN は、その非物理的要因のためであろうか、かなり特殊な用途に使われる場合が多い。その一つがいわゆる「着衣」を表す次のような用法である。

- (65) a. Harrison Ford in Harris *tweed* (The Da Vinci Code)
- b. He was dressed in a blue *uniform*.

(65)の LM は衣服を表しており、TR がその衣服の機能によって定義される空間 (つまり、衣服の内部空間) を占めているので IN が使えることは首肯できよう。しかし、実際には、さらに進んで、「身につける」という特殊な用法をこの IN は発達させているようである。

まず第一に、中に入っているとはほとんど考えられないような身に付けるものについても IN は使用できる。

- (66) a. the man in a black *hat*
- b. ... treading softly in his *sandals*. (O'Henry)
- c. a young chap in a traveling *cap*. (ibid.)
- d. Those turtlenecks you wear are so dated. You'd look much sharper in a *tie*. (Lost Symbol)
- e. The guy gets the hots for every girl he sees in a *bikini*. (E-DIC)
- f. the general in golden *epaulets* (Herskovits)

これらの例において TR が LM の空間の中に入っているとは考えにくい。

第二に、次のような表現が可能である。

- (67) Playing in the snow in your *barefoot!* (E-DIC)

(67)が可能であることの一つの説明は、in one's bare foot が wearing no shoes と同意であるため、その意味の中に「身につける」という意味要素が存在することによって認可されているとすることである。

第三に、着衣の IN と通常の IN は等位接続できない。

- (68) *The lady is in a silk coat or in the room.

着衣の IN の用法が通常の空間用法の IN から拡張されたことは疑問の余地がないように思われるが、(68)の例から考えると、着衣の用法は元の用法からかなり隔たっており、別の意味であると認識されているように思われる。

着衣の IN と似たような発展を遂げているのは「罠」の IN である。罠とは、動物などを捉えるための装置である。その一番典型的な状況は、例えば、動物を檻のようなものに捉えることであろう。(Cf. a lion in the cage) その場合、檻の機能によって定義される機能空間を TR が占めており、IN の使用が可能になる。しかし、罠がいつも檻のように TR 全体を囲むものであるとは限らない。例えば、小さな輪のようなものが鎖に繋がれた罠もある。その場合、TR は体のほんの一部しか捕らわれていないが、それでも TR は逃げられないために in the trap ということができる。このように、LM によって定義されて空間の一部を占めるといふ本来の特質は二義的なものとなり、むしろ「捕らわれた」という方に焦点が移っているものと考えられ、それにより、本来の IN の用法がかなり発展し

た用法と言える。罨ではないが、次の用法も類似のものであろうと思われる。

(69) I caught my right hand in the car door.

(69)でも catch という語があることに注目したい。

5. まとめ

本稿では、IN の様々な用法を統一的に説明するための基盤を提案した。その提案は、まず、英語の話者は、空間を次のように（少なくとも）3種類認知しているとするものである。

(70) a. LM 自体によって定義される空間（固有空間）

b. LM の機能によって定義される空間（機能空間）

c. LM の輪郭によって定義される空間（輪郭空間）

そして、IN 自体の意味は、次のように極めて簡単なものであるという主張である。

(71) TR in LM: TR が LM によって定義される空間を占めている

さらに、様々なメタファー的な用法についての提案も行い、解法の方向を探った。

参考論文

Herskovits, Annette (1986) *Language and Spatial Cognition*, Cambridge University Press, New York.

Lakoff, George and Mark Johnson (1980) *Metaphors We Live By*, The University of Chicago Press, Chicago.

参考資料

O'Henry

(http://www.literaturecollection.com/a/o_henry)

Brown, Dan (2000) *Angels and Demons*, Pocket Books, New York.

Brown, Dan (2003) *The Da Vinci Code*, Anchor Books, New York.

Brown, Dan (2009) *The Lost Symbol*, Doubleday, New York.

E-DIC (version 1.1) (2005) 朝日出版社

Collins COBUILD Dictionary on CD-ROM 2006

(HarperCollins Publishers)

(2013. 8. 5 受理)